



水源地域との交流事業

水源わくわくセミナー2022 について



彩の国  埼玉県
Saltama Prefecture



FAQ

- ・「水源わくわくセミナー」って何？
- ・なぜ埼玉県がこのイベントをやるの？
- ・長野原では何が楽しい？

などをお伝えします。

「水源わくわくセミナー2022」について（概要）

埼玉県では平成8年度から県内在住の小学生とその保護者の方を対象に「水源わくわくセミナー」を開催しており、下記のとおり、参加者を募集しました。

なお、詳細は埼玉県広報誌「彩の国だより」6月号及び埼玉県ホームページをご覧ください。

- 1 日 時 令和4年7月27日（水）～28日（木）1泊2日
- 2 会 場 群馬県吾妻郡長野原町（現地集合、現地解散）
- 3 内 容 ハツ場ダム見学、浦和レッズによるサッカー入門教室等
- 4 対 象 埼玉県内在住の小学3～6年生（保護者同伴）
計40名程度 ★抽選
- 5 費 用 5,000円（大人、子供同額）
※なお、宿泊費等費用の一部を県が負担します





令和3年度 国土交通省
水の里の旅コンテスト
優秀賞受賞

Q 「水源わくわくセミナー」って何？

- ・ **県内の小学生と保護者を対象に、1泊2日で水源地の方々との交流を行い、水の大切さや水源地域の理解を図るものです。**
- ・ 埼玉県の水源地である八ッ場ダムのある群馬県長野原町を訪問し、八ッ場ダムを見学することでその役割や地元の方々の苦労を理解していただくとともに、浦和レッズによるサッカー入門教室を通じて、水源地である長野原町の小学生との交流を図ることを目的としたセミナーです。
- ・ 主な行程は、八ッ場ダムの見学、説明とともに、埼玉県のプロサッカーチーム浦和レッドダイヤモンズ（浦和レッズハートフルクラブ）によるサッカー教室を通じた小学生同士の交流です。
- ・ 平成8年度から実施しており、**参加人数は延べ約3,300人**で、埼玉県 約1,800人 長野原町 約1,500人です。
- ・ 当時の写真でもこの事業の歴史を感じます。開始当初から多くの関係機関の皆様の協力のもとに開催しています。
- ・ 直近に開催した2019年の参加者は埼玉県と長野原町の小学生や保護者を合わせた102名です。
- ・ 参加された方々のアンケートでは、参加者の91%が八ッ場ダムについて理解した、また、参加者の95%が水の大切さについても理解したと回答いただいております。さらに参加者の98%がまた長野原町に来たいと回答いただくなどリピーターも生まれ、水源地域の振興の一助にもなっております。
- ・ **一人でも多く水源地を訪れていただき**、水の大切さや水源地域の現状、問題等の理解を高めていただければと思います。

■ 上下流交流事業 水源わくわくセミナーとは



県内の小学生と保護者を対象に1泊2日の日程で、埼玉県の水源地になっているハッ場ダムのある群馬県長野原町を訪問し、水源地の方々と交流を行い、水の大切さや水源地の現状の理解促進、相互理解を進めるものです。

○内 容 ハッ場ダムの見学、
上下流交流事業（浦和レッズによるサッカー教室）

○実施期間 平成8年度～

○参加人数 延べ 約3,300人（24年間）
埼玉県 約1,800人 長野原町 約1,500人

○主 催 埼玉県、埼玉県企業局

○協力機関 浦和レッドダイヤモンズ株式会社 **令和元年度 国土交通省水資源功績者表彰受賞**

長野原町

国土交通省 関東地方整備局 利根川ダム統合管理事務所

群馬県

群馬県 ハッ場ダム水源地域対策事務所





水源わくわくセミナー 2019





水源わくわくセミナー
1997 1998

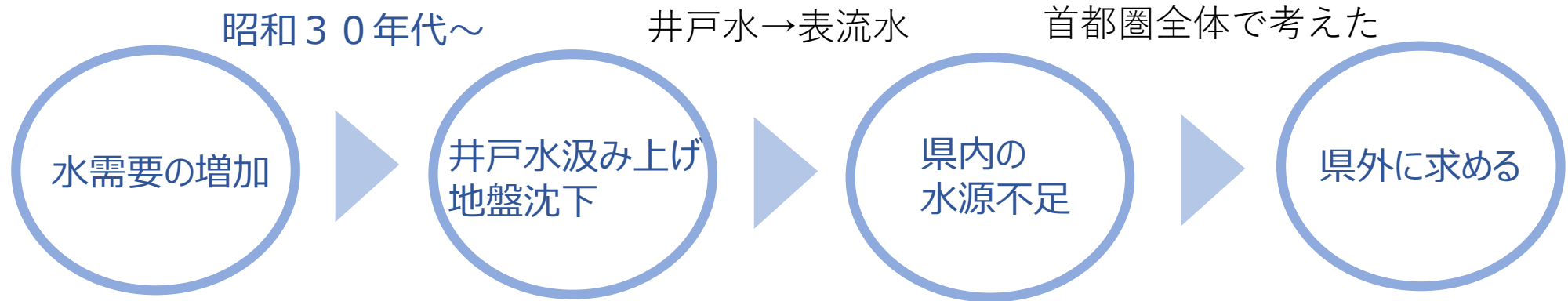




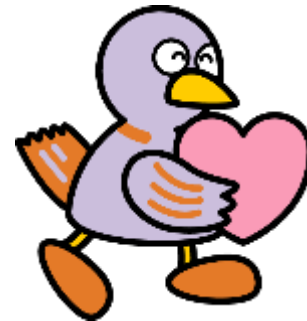
Q なぜ埼玉県がこのイベントをやるの？

- ・まず埼玉県の水源の確保の歴史をお話します。
- ・首都圏に位置する埼玉県では、昭和30年代からの人口増加により、水の需要が大きく増加しました。
- ・井戸水のくみ上げにより水を確保していましたが、地盤沈下が大きな問題となり、川の水への切り替えが必要となりました。
- ・その結果、日本でも有数の大河川 利根川の上流である群馬県に多くのダム建設をお願いすることとなり、八ッ場ダムはその一つです。
- ・ダムを造ることは、長きに渡り、多くの方々に苦勞と協力をお願いすることになります。
- ・そのため、埼玉県では水の恩恵を受ける県民が、水源地域の方との交流を通じて、親睦と理解を深めていただくことを目的として、現在、3つの上下流交流事業を実施しています。
- ・そのうちの 하나가、群馬県長野原町の八ッ場ダムで行う「水源わくわくセミナー」です。
- ・一方で県民約2000人に聞いたアンケートでは、県の水源の半分以上が県外にあることや、八ッ場ダムでの交流事業はあまり知られていませんでしたが、水源地域を訪れたい人は多いことがわかりました。
- ・このように水源地域を知らない方と行きたい方をマッチングする意味もあると考えます。

■ 埼玉県の水源地（水資源）の確保



ダムは上流へ



■ 埼玉県の水源地域との交流事業

令和2年度、令和3年度については新型コロナウイルス感染拡大防止のため、すべての事業を中止

平成8年度からハッ場ダムをはじめ
3つの水源地域で上下流交流事業を実施

1

水源わくわくセミナー

ハッ場ダム

群馬県
長野原町

since 1998

2

さいたまの
水と森ふれあい体験

滝沢ダム

埼玉県
秩父市

since 2010

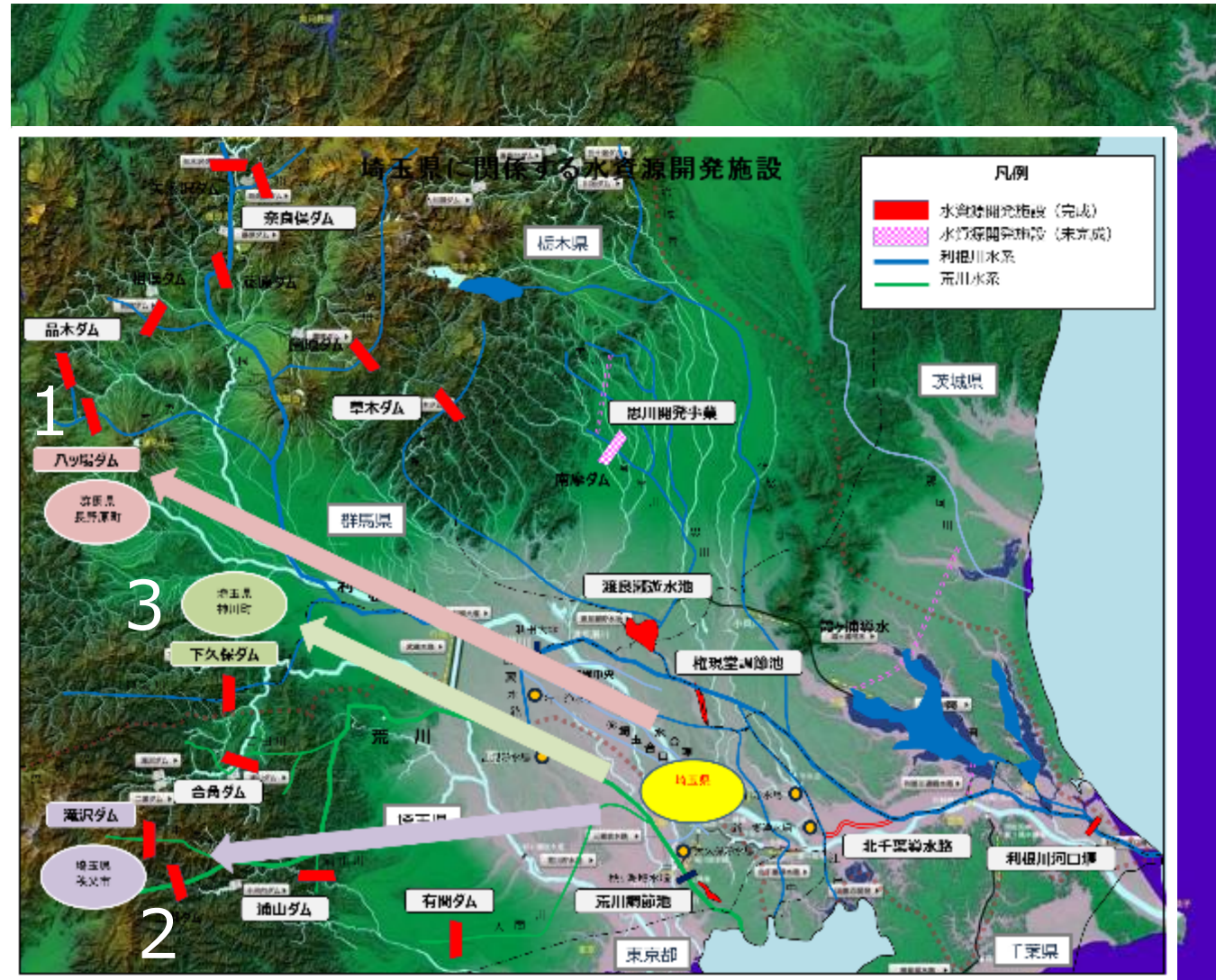
3

水のふるさと応援団

下久保ダム

埼玉県
神川町ほか

since 2004



令和3年10月に実施した県政サポーターアンケート（回答者数2217人）では、**埼玉県の水道水の水源が半分以上県外にあることを知っているか**尋ねたところ、「知らなかった」が6割半ば（65.6%）でした。

また、**埼玉県の水資源施設のある「水源地域」を守る施策のうち、知っている施策はありますか**と聞いたところ、「ハッ場ダム水源地域の住民と埼玉県民とのサッカー教室等を通じた交流」を知っている方は4.5%と少なく、また「いずれも知らない」が7割半ば（75.1%）でした。

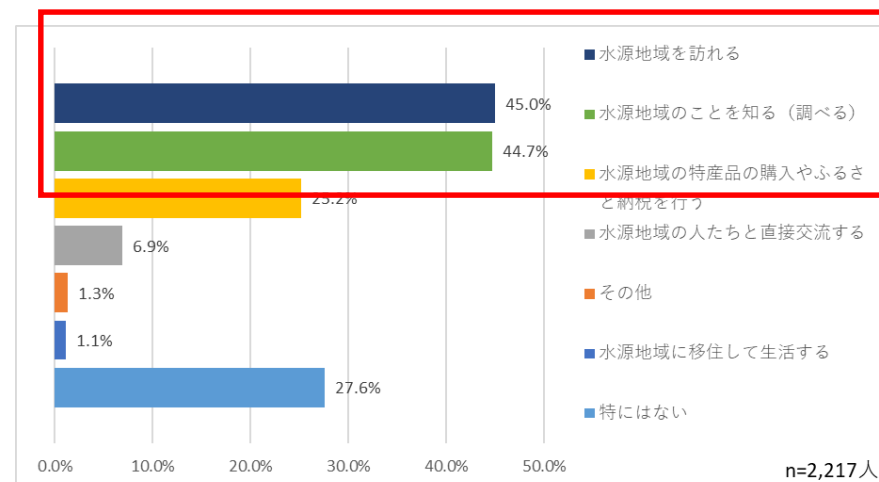
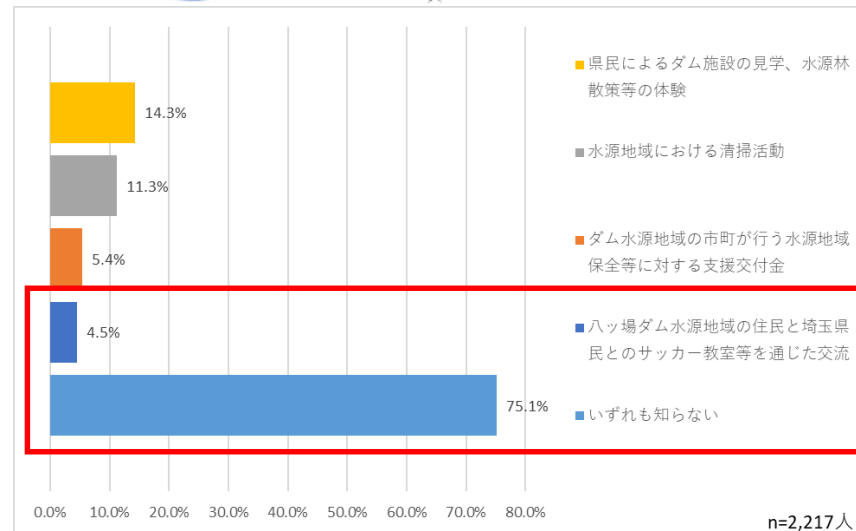
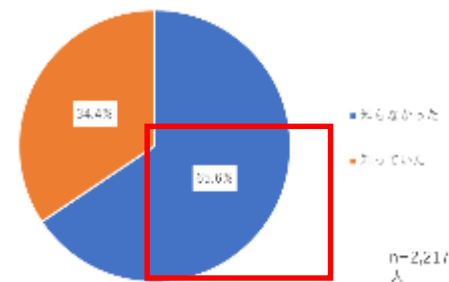
しかし、**水源地域のためにどのような取組をしてみたいか**尋ねた結果、「水源地域を訪れる」が最も多く4割半ば（45.0%）、次いで「水源地域のことを知る」が4割半ば（44.7%）、「水源地域の特産品の購入やふるさと納税を行う」が2割半ば（25.2%）となりました。

こうした課題についても、県の水源地域を守る取り組みが必要と考えます。

■サポーターアンケート（令和3年度）

第194回「水の利用等に関する意識調査」

<https://www.pref.saitama.lg.jp/a0301/supporter/r3-enquete.html>





Q 長野原では何が楽しい？

- ・ **水や緑が豊かな長野原町**だからこそできる遊びや楽しみ、そして豊かな自然からできる食も味わうことで、地域の魅力を感じていただき、より長野原町を知っていただければと思います。
- ・ 八ッ場ダムの建設とともに、町の新たな”アミューズメント”として、道の駅、水陸両用バス、キャンプ場などが作られ、また川原湯温泉の移転に伴い、整備されました。
- ・ まだまだ遊ぶことができる長野原町です。
- ・ さらに八ッ場ダムの流域（吾妻川）を上流に辿っていくと、全国でも有名な草津温泉があります。
- ・ 実はここでは’世界初’となる「中和事業」が日々休まず24時間365日行われています。
- ・ 吾妻川に流入する湯川は強い酸性の川です。その水を中和して、川を甦らせようという「国土交通省品木ダム管理所」の事業です。
- ・ 草津温泉を楽しむとともに、その前にこうした事業を「まず知る」旅もあります。
- ・ **水源わくわくセミナー**をきっかけにぜひまた訪れてください。

(町の新たな“アミューズメント”や地域に根ざした食や遊びを満喫)

①まだまだ遊ぶ 長野原



・水陸両用バス
ハツ場あがつま湖やその周辺を周遊するツアー。道の駅ハツ場ふるさと館から乗車可能。

・自転車型トロッコ (A-Gattan)
ダム建設により、JR吾妻線のルートが変更
使われなくなった廃線を使用し、自転車型トロッコを運行

・川原湯温泉駅キャンプ場
ビギナーにおすすめ
手ぶらでキャンプやバーベキューが楽しめる

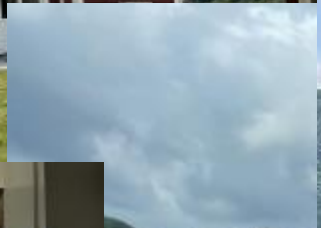
・川原湯温泉王湯会館
生まれ変わった伝統の共同浴場
木漏れ日が差し込む露天風呂からダム湖を望む

ハツ場ダム周辺総合観光案内「やんば旅ナビ <https://www.yamba.jp/>

水や緑が豊かな長野原町だからこそこできる遊びや楽しみ、そして豊かな自然からできる食も味わうことで、地域の魅力を感じていただき、より長野原町を知っていただければと思います



全国初!? ハツ場ダム
カレーぱん



■ 「水を知る」 埼玉県の取り組みの紹介

- ・ 彩の国だよりによる広報
- ・ 県ホームページによる広報

・ 水の作文コンクール

「全日本中学生水の作文コンクール」は、水資源の有効性、貴重さ、水資源開発の重要性についてご理解いただくため、「水の日（8月1日）」・「水の週間（8月1日から7日）」関連行事の一環として毎年実施しています。

・ みなおそう埼玉の水

日頃当たり前のようになっている水を見直していただき、水の大切さや役割を再確認していただくことを目的に主に小学校4年生の副読本として毎年作成しています



■最後に



令和2・3年度は、水源地域との交流事業はすべて中止でしたが、令和4年度からコロナ禍を踏まえ、内容を変更しながら再開します。

- ・一人でも多く水源地域を訪れていただき、水の大切さや水源地域の現状、問題等の理解を深めるとともに水源地域の魅力をより広く皆様に知っていただければと考えます。
- ・最後までお読みいただきありがとうございました。



ありがとうございました